日中友好の親善大使
張麗玲さん
中国と日本が少しでも近くなるように

东京银座的一家面向日本全国播放中国电视节目的电视台——株式会社大富（下称“大富”）深受日本观众称颂。在日本，电视观众可以通过日本卫星电视网、有线电视及宽带电视等收看大富电视台的两大频道“CCTV大富”和“TVB大富”，分享中国两岸三地最精彩的电视节目。大富的社长，是一个叫张丽玲的女人。而她，也是在中日两国都曾引起巨大社会反响的系列电视纪录片《我们的留学生活》的制作者。

東京・銀座。スカイパーフェクTV！をはじめ、ケーブルTVやブロードバンドTVで「CCTV大富」と「TVB大富」というチャンネルを通じて、中国語の番組を日本全国に向けて放送している会社がある。社名は株式会社大富。この会社は、日本と中国の間に立つ企業として、日中両国が少しでも近くなるようにという企業理念の実現を目指し、放送事業だけにとどまらず、様々な分野にわたる積極的な事業展開を行っている。

代表を務めるのは、長年に亘って中国人留学生たちの日本での生活を記録したドキュメンタリーシリーズ「私たちの留学生活～日本での日々～」の制作をきっかけに、日中両国で一躍“時の人”となった張麗玲さん。

夢と希望を抱いて

1989年、自らも留学生として日本を訪れた経験を持つ張麗玲さんは、成田空港に降り立った日の光景が今も強烈に目に焼きついていると語る。

空港では、中国人留学生たちが、鍋釜や野菜までも詰め込んだたくさんの荷物を抱え、期待と不安の入り混じった表情で迎えを待っていた。海外留学という大きな潮流、中国人留学生たちの海外での現実、これもまた改革解放後の中国の貴重な歴史の１ページ。こういった現実を何かの形で記録に留めておけたら、のは、時がたつに連れ、益々強まっていった。

カメラを貸してください

いつまでたっても好きになれない日本。でも、このまま帰国してしまったら、日本での日々が無駄になると思った張麗玲さんは、日本で就職することを決意。伝統を持つ総合商社大倉商事に入社する。

「カメラを貸してください」。全ては、この一言から始まった。

インタビューした留学生は300人以上、取材テープは1000本以上にも及んだ。

放送してくれるテレビ局を探すために中国に帰国。飛込みでテレビ局を回り、やっと北京テレビ局での放送が決まった。

そして、ドキュメンタリーの放送。張麗玲さん自身の運命も大きく変わっていく。

日本の本当の姿を伝えたい・

99年11月。張麗玲さんの制作した10本のドキュメンタリーシリーズは「私たちの留学生活～日本での日々～」というタイトルがつけられ、宣伝すらされずに放送された。

のドキュメンタリーは、視聴者の熱烈な支持を受け、中国全土に大旋風を巻き起こした後、ついに日本で放送されることになった。

小さな留学生

2000年５月、フジテレビで「小さな留学生」が放送されると、愛らしくも真摯に生きる主人公張素ちゃんの姿が視聴者の心を捉え、日本でも大きな反響を巻き起こすことになる。

そして、2001年6月、「第27回放送文化基金賞」番組部門において、「小さな留学生」が、テレビドキュメンタリー賞を受賞し、張麗玲さん自身も、「個別個人計画賞を受賞した。

2002年には、張麗玲さんがドキュメンタリーを制作する姿を7年間追い続けたドキュメンタリーが2時間半にまとめられ、「中国からの贈りもの」というタイトルをつけられ、日中国交30周年記念特番として放送された。

大富の設立

大倉商事での仕事とドキュメンタリー制作の傍ら、1998年2月には㈱大富を設立。株主は大倉商事とフジテレビ。会社名は、大倉商事の「大（だい）」とフジテレビの「富（ふ）」を取って命名した。当時、日本での放送を考えていたCCTV中国中央電視台から、日本でのパートナーを探してくれないかと依頼され、ドキュメンタリー制作をバックアップしてくれていたフジテレビと大倉商事に話を持ち込んだのがきっかけだった。

同年7月に、SKYPerfecTV!を通じて、中国の国家テレビ局「CCTV中国中央電視台」の番組を放送する「CCTV大富」を開局した。

2002年１月には、アジア圏で圧倒的な人気を誇るテレビ局「TVB」の番組を放送する「TVB大富」をスタート。

日本と中国が少しでも近くなるように・

大富テレビ設立から7年が過ぎようとしているが、日中両国の関係は依然として先が見えないまま。むしろ、中国国内の状況は反日に傾いているとさえ言える。

張麗玲さんは、隣国である日中両国が依然として関係を修復できないでいるのは、お互いの本当の姿を知るための、相互間の情報不足が大きな原因だと語る。

中国という国は本当はどういう国なのか。いま中国人は何を考えているのか。何に興味を持っているのか。中国の様々な情報をそのままの形で日本に伝えることができたら、相互理解のための重要な出発点となる。日本人の中国及び中国人への理解をより深めることに貢献できる・・・。この強い使命感こそが、今日まで張麗玲さんを引っ張ってきた。

今後も、日中両国が少しでも近くなるように、様々な情報発信と活動を続けていきたいと微笑む張麗玲さん。日中での今後の活躍がますます期待される。